

H29年度 大明小学校の教育についてのアンケートの集計結果(保護者対象) 1学期

調査対象人数 PTA学校委員48名 提出者48名

A=そう思う B=ほぼそう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない

評価項目		A	B	C	D
1	学校は教育目標や具体的行動目標（あいさつができる子供・進んで学習ができる子供・落ち着いた生活ができる子供）を保護者に伝えている。	29	18	1	0
		60.4	37.5	2.1	0.0
2	学校は特色ある教育活動を行っている。（大明小学校の特色ある活動：①地域と連携した教育②地域文化（大明小ばやし）の伝承 ③縦割り班活動を中心とした児童会活動）④小笠原礼法の学習など	30	18	0	0
		62.5	37.5	0	0
3	学校は、子供が学習で努力したことを認めてくれている。	21	26	1	0
		43.7	54.2	2.1	0
4	学校では、子供の長所や個性を理解し、教育に当たっている。	18	26	4	0
		37.5	54.1	8.4	0
5	学校は、子供についての悩みや心配事に適切に対応してくれる。	20	26	2	0
		41.7	54.3	4.0	0
6	学校からの文書や連絡等は適切である。	28	17	3	0
		58.3	35.4	6.3	0
7	学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。	22	24	2	0
		45.8	50.0	4.0	0
8	学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。	27	21	0	0
		56.3	43.7	0	0
9	子供は、学校に行くことを楽しみにしている。	28	19	1	0
		58.3	39.6	2.1	0
10	子供は、学校生活の中で、（あいさつができる子供）（進んで学習ができる子供）（落ち着いた生活ができる子供）など、豊かな心、生き方について学んでいる。	19	25	3	1
		39.6	52.0	6.3	2.1
11	子供は、授業を十分に理解している。	20	25	3	0
		41.7	52.0	6.3	0
12	子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣が身についている。	20	25	3	0
		41.7	52.0	6.3	0
13	子供に携帯電話を持たせていますか。	13			35
		27.1			72.9
14	子供に携帯電話を持たせている場合、子供とルール作りをしていますか。	12			
		92.3			
15	子供達は、地域の行事へ積極的に参加している。	22	21	3	2
		45.8	43.9	6.3	4.0
16	子供達は、家庭や地域の中で、あいさつをしている。	19	24	4	1
		39.6	49.9	8.4	2.1
17	家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。	16	25	6	1
		33.3	52.1	12.5	2.1

保護者・地域と学校の連携について【自由記述】

<学校教育・学校経営・学校運営について(設問1～設問15)について>

8	不審者情報を的確にメールで伝えてくれることが、とてもありがたく安心して生活が送れます。
10	基本的な生活習慣や自主学習の取り組みの用紙を持って帰りますが、そのような機会があると、今の生活をもう一度見直す良い機会になります。少しずつですが、改善されているように思います。
13	トラブルの原因になるので、携帯電話を義務教育のうちには持たせるつもりはありません。持たせるならば、家庭できちんとルールを作る必要があると思います。

<その他>	
①	毎日の学校生活を楽しく過ごしているようなので、大明小学校の良さが子供達に伝わり、心配なく登校させています。先生方の御指導に感謝しています。
②	今の時代、不審者の兼ね合いもあり難しいとは思いますが、あいさつができる地域になった方が、より犯罪を抑制できると思います。
③	予算の問題はあるとは思いますが、クラスによっては、もう一人先生を配置してほしいと感じています。
④	登校班によっては、トラブルも起こりますので、これからも、登校班の指導を続けていってほしいと思います。

参考：保護者アンケート結果【1学期の結果です。ご覧ください】

<全般考察>

全体的には、17問の設問中（No, 13とNO, 14は、携帯電話の所有についてでした）、すべての設問についてA評価及びB評価の肯定的評価が85%以上でした。昨年度と比較しても、さらに、12の設問が90%以上になりました。また、今年度も、70パーセント台はありませんでした。大明小学校の教育活動について保護者の御理解・御協力、地域の方々の学校支援ボランティアや安全パトロールなどいろいろな面での御支援をしていただいたことは、誠に心強く、それが今回の結果にもつながったものと、心より感謝申し上げます。

昨年度の第1回学校評価の結果と比較して、設問1・2・3・5・7・8・9は肯定的評価がとて増加となり、その数値は95%を超えました。これからも、教育目標や、教育方針を正確に家庭に伝えて、学校と各家庭での子供たちへの指導の連携を強め、さらに大きな成果を上げていきます。

また、昨年度、C評価及びD評価の否定的評価が15%以上の項目が2つありましたが、今年度は1つありませんでした。設問15「子供達は、地域の行事に積極的に参加している」が10.4%・設問16「子供達は、家庭や地域の中で、あいさつをしている」が10.5%・設問17「家庭と学校は、連絡や意志の疎通が図られている」が14.6%でした。この3つの項目については、状況を分析し、子供の理解・地域行事への参加を促していきます。そのためには、保護者との連携を密にしていけることが何より大切であります。今後とも御支援・御協力の程よろしくお願い申し上げます。

<学校教育・学校経営・学校運営について（設問1～8）>

考察1

設問1から設問8については、「学校教育・学校経営・学校運営」に関する設問です。

8項目中、6項目が95%以上の高い肯定的評価をいただきました。また、残りの2項目も91%以上で、なんと8項目すべてが90%以上でした。この結果の分析としては、地域文化の伝承（大明小ばやし）は、今年も5年生から4年生への演奏や指導や引継ぎを行いました。11月に行われる文化発表会や甲西ふるさと祭りでの4年生の演奏が楽しみです。さらに、3年生では昨年度から（若宮神社とわたしたちのくらし）や（お神楽のこと）も学習しています。今年度も引き続き内容を充実させています。また、児童会役員を中心として、6年生が縦割り集団活動、委員会活動など、学校の顔（リーダー）として活躍してくれました。2学期以降、運動会や文化発表会も予定されています。このような活動の場で、児童会活動が活発に行われ、子どもたちの自己肯定感を向上させてくれるものと期待しています。そして、新しい項目の7については、今年度も防球ネット・児童玄関の床の張り替え・プールの水漏れ修理等をして頂き、市当局の早急な対応に感謝しています。

<今後について>

各学級担任は、Q-U検査や日常の学級の観察で学級の傾向を分析しながら、児童の普段の様子を今まで以上にきめ細かく観察し、未然防止・早期発見、早期解決に取り組んでいます。そして、些細な変化がある場合にも、保護者との連携・連絡等を丁寧にしていき、いじめや不登校につながらないようにしていきます。また、「不審者情報を的確にメールで伝えてくれることが、とてもありがたく安心して生活が送れます。」というご意見も頂きました。これからも、きめ細かい学校からの情報提供を行っていきたいと思います。そして、今年度も不審者対策として、低学年と高学年については、南アルプス警察署（生活安全課）の御協力を頂き、防犯教室を実施しました。また、本校における「学校安全・危機管理マニュアル」を作成し、4月に全教職員に配付するとともに、その動きについても確認をしています。このことについて、再度徹底していきます。

そして、学校生活の様子もホームページで情報発信を行い、周知していきます。子供達の学校生活の様子をホームページでご覧になってください。

<子供の様子について（設問9～17）>

考察2

設問9～17については、子供達に道徳性や社会性が身についているかどうかを尋ねた質問です。設問9「子供は学校に行くことを楽しみにしている」について、A評価及びB評価の肯定的評価が97.9%でした。昨年度の数値は88.2%でしたので、9.7%も上昇しました。やはり、学力向上や生活規律の確保ためには、子供達の学校への期待感が必要です。これからも、日々の授業の改善や行事の内容を精査し、子供達の自己肯定感を高める取り組みをしていきたいと考えています。また、設問12「子供は（早寝・早起き・朝ごはん）の基本的な生活習慣が身についている」のA評価及びB評価の肯定的評価が93.7%でした。児童が授業に集中できるためには、睡眠と栄養、また規則正しい生活習慣が大変重要な要素です。これからも、学校と家庭とで連携して、子供達の心身の発達に努力していく必要があると感じます。

<今後について>

設問9「子供は学校に行くことを楽しみにしている」のA評価及びB評価の肯定的評価のポイントをもっと上げていけるように、全職員がチームとしてまとまって授業の質を向上させたり、行事を通して子供達に達成感を味わってもらう取り組みをしていく必要があります。また、学年や学級でも、各学年の保健目標を確認して、毎学期行っている「早寝・早起き・朝ごはん」や生活習慣強化週間に積極的に取り組む必要があります。

考察3

設問13「子供に携帯電話を持たせていますか」という設問において、携帯電話を持たせている割合は、27.1%でした。今後この数値は、上昇していくと考えられます。そして、設問14「子供に携帯電話を持たせている場合、子供とルール作りをしていますか」という設問では、92.3%の家庭で、ルール作りができていました。やはり、家庭でルールをきちんと子供と話し合っ決めていくことが、とても大切な事だと感じます。

<今後について>

子供達が、携帯電話の使用を誤ると、とても危険な場面に遭遇してしまう可能性があります。学校と家庭で連携して、子供達に正しい携帯電話の使い方を教えていかなければなりません。家庭では、子供とルール作りを進める必要があります。また、学校では高学年生に（防犯教室）を企画して、正しい携帯電話の使い方を指導していきたいと思えます。